

序文

厚生省の推計によると、21世紀初頭には高齢者数の増加にともない「寝たきり老人」の人口は200万人となり、要介護老人の問題は増大することが考えられます。現在でも、当病院での「寝たきり」につながる下肢障害による歩行困難患者さんの数は増加し、入院患者数226人（平均年齢82.1歳）のほとんどが歩行困難者であるといっても過言ではないほどであります。

著者の滝沢恭子さんは、昭和63年以来当院に理学療法士として勤務され、種々の器具を利用して高齢者のリハビリテーションを行い、一方では従事者の教育や指導もつづけ、患者さんやその家族、院内の職員からも信頼されている方です。滝沢さんを中心とした当院でのリハビリテーション療法は、床ずれ（褥瘡）や筋肉及び関節拘縮を予防し、筋力を付け歩行困難者の機能回復など顕著な効果が認められ、平成5年（1993）には関連学会で発表されたりして、大きな成果となっています。

本書は、学会発表と同時に進行していた新エネルギー・産業技術総合開発機構の支援の下に開発された新四輪型ソリ付歩行器の研究に関わった多くの大学病院や諸施設の理学療法士の先生方の経験と英知から、21世紀の高齢社会に向けての対策マニュアルとも言える刊行であります。

内容は図解で分かりやすく、丁寧でしかも簡潔明瞭な文章で、実践した成果（第二部）、難解な用語の説明辞書や用具の説明（第三部）、など読者への多くの配慮がなされていて、経験の豊富な研究会の熱意までも感じさせます。

「寝かされた人をつくらないように」という理学療法士としての理念から「机を利用した体力維持方法」という自宅で簡単に出来る実践まで障害者への暖かい「まなざし」も本書の基本となっています。

本書が医学的知識の有無にかかわらず、一般家庭で介護される方々やボランティアの方々など多くの人々にお読みいただけるようお願い申しあげると共に福祉関係の方々へも推薦したいと存じます。

1996年2月

医療法人社団 湘南健友会 長岡病院

院長 入江 是 清